

「子ども司書」養成講座スタート!

「子ども司書」は、子どもの読書活動を進めるリーダーです。他の子どもたちから、「おすすめの本はどれですか?」「 について調べたいけれど、どうしたらいいの?」と聞かれた時、アドバイスできる読書リーダーをめざします。

そのためには、いろいろな種類の本を読んだり、図書館の仕事について学んだりして、本や図書館のことについてもっともっとくわしくなることが大切です。地域の図書館や学校図書館でしっかり活動して、「子ども司書」になれるようがんばっています。

ここでは、第1回目となる全体研修の様子について紹介します。

日 時 平成22年7月24日(土)

10:30~16:30

場 所 広島県情報プラザ及び県立図書館

参加者 小学校第5・6学年の児童139名



【講座の様子】

講演 「読書ってすばらしい!」 講師：絵本作家 あきやまただし氏

子ども達は、あきやま先生の代表的な作品である「へんしんトンネル」、「さかさのこもりくん」、「たまごにいちゃん」等を、あきやま先生ご自身による読み聞かせで楽しみました。時には先生といっしょに声を出して読むことで、「なりきって演じる」ことの大切さを学びました。

子ども達からは、「あきやま先生の読み聞かせの仕方がとても面白くて、あんな読み方をすればみんなを笑顔にできるんだなと思いました。」、「あきやま先生がどんな気持ちや思いで絵本をかいているか聞けてよかった。」、「私もあきやま先生がかいたような本をかいてみたいです。」等の感想がありました。





「友だちになろう！」(仲間づくり活動) 講師：県教育委員会 生涯学習課職員

読み聞かせの班の班員同士でペアになり、自己紹介を交えたゲームを行いました。開会式の際は緊張した様子だった子ども達も、すっかりうちとけたようです。



講座 「公立図書館の役割」 講師：県立図書館 黒川副館長

司書の仕事や図書ラベル、日本十進分類法について学びました。

子ども達からは、「司書の仕事がたくさんあること、本のラベルの書き方や本の種類はきちんと分類してあることが一番勉強になった。」、「司書はいろいろなことをやらなくてはいけなくて大切な役割なんだということが分かった。」等の感想がありました。



演習 「読み聞かせ名人になろう！」 講師：読書ボランティア15名

読み聞かせをする12冊の絵本によって12の班に分かれ、まず「読み語り」の仕方について学びました。講師である読書ボランティアの方の「読み語り」を聞いた後、一人一人が練習し、班員の前で実際に読み聞かせを行いました。

子ども達からは、「読み方一つ、立ち方一つでガラッと本のイメージが変わると思いました。今日の絵本をもっと練習し、1・2年生に読んであげたいと思いました。」「先生の『読み聞かせをすると、読んであげた人の喜びが自分に返ってくる』という言葉が心に残って、確かにそうだなと思いました。」等の感想がありました。



書庫見学 「出発！図書館探険隊」 講師：県立図書館職員

6グループに分かれて、県立図書館の書庫見学を行いました。ふだんなかなか目にすることがない書庫の様子や、そこに収められた様々な資料に、子どもたちは強い関心を示していました。

子ども達からは、「58万冊も本があっておどろきました。」「新聞も編集して本にしていることが分かりました。そして、電気も少ししかつけていないと知って、とても気を付けているんだなあと思いました。」等の感想がありました。



参加した子ども達は、目を輝かせながらあきやま先生のお話を聞いたり、様々な活動に一生懸命取り組んだり、たいへん充実した一日を過ごしました。感想にも、「子ども司書になるためにがんばりたい。」という気持ちがあふれていました。

これから9月3日までの間、子ども達はそれぞれの地域の図書館で夏の実地研修に取り組みます。みなさんの街の図書館で、「子ども司書」の研修をがんばっている子ども達を見かけたら、ぜひ応援してやってください！！

